

ハゴロモ

1. セミやカメムシの仲間

天女の羽衣から名付けられたのでしようが、どこが似ているのか観察してみましょう。

ハゴロモは、成虫が静止しているとき翅をふくめて1cm前後の大きさで、幅の広い三角形の翅を持った、セミやカメムシと同じ半翅目という吸汁性の昆虫です。幼虫も成虫も植物の柔らかい部分に口針を突き刺して吸汁しますので、作物や園芸植物につけば害虫とよばれてしまいます。植物が成長している部分が生息場所となるため、遊歩道など日の入る林縁が観察できる場所です。



ベッコウハゴロモ



アミガサハゴロモ



アオバハゴロモ



スケバハゴロモ

打吹山で見られる種類は、アオバハゴロモとベッコウハゴロモが一番多く、スケバハゴロモとアミガサハゴロモも見られます。幼虫は7月に羽化しますが集団でいることが多く、また、幼虫と成虫は同じ植物で吸汁するため、両者が同時に見られる時期があります。この時期に観察すると、どのハゴロモの幼虫かわかりやすいでしょう。アオバハゴロモは翅を立てて止まりますが、他の種は平らに伏せて止まります。アオバハゴロモの属名: *Geisha* は、薄緑を縁取る赤の美麗さからWalkerさんが命名したのでしよう。

学名 : *Geisha distinctissima* Walker の3要素からなる。

ラテン語化して用いる。

2. 目立つ幼虫

卵は枯れ枝などの樹皮下に産み付けます。5月頃に孵化(ふか)した幼虫は扁平な虫ですが、腹端から蠟(ろう)物質を分泌して隠蔽(いんぺい)に使っています。アオバハゴロモでは、綿のような感じで全身を覆うため枝が白くみえます。ベッコウハゴロモなど他のハゴロモの幼虫は、繊維状の蠟物質を束のように尻尾につけるとともに、その粉末を全身につけています。この分泌物は手で触ると取れやすいのですが、また分泌します。幼虫は集団を作ることが多く、よく目立ちます。近づくと歩いて逃げることもありますが、ぴよんとジャンプし、一瞬でどこに行ったのかわからなくなります。この時、腹端に付けている分泌物の束を広げて、パラシュートのように着地します。幼虫でも素早いものです。



ベッコウハゴロモの幼虫



アオバハゴロモの幼虫